

## 将来への提言

### 第 35 回早大 OC 大会実行委員長

柳沢稜

#### 1. はじめに

今回の大会で試行したこと、及びミスの誘発原因について考察し、将来へとつなげていこうと考えます。

#### 2. 初めての試み

##### A) 2年掛かりの地図調査

近年の早大 OC は部員数の減少により、1 年間という期間で地図の調査と大会運営を自力で行うことが不可能でありました。そこで、調査を 2 年間かけて行えば、隔年ではあるが自力で調査した地図で大会が開催できるのではないかと、ということが今回の動機です。NishiPro の航空レーザ測量成果の OCAD ファイルへの変換事業や、YMOE 社から Trimble 社製 GPS をお借りする等の多くの助けも借りることで、何とか 2 年間で調査を終えることができました。

結論から述べさせていただきますと、調査期間を延ばすことにより自前の地図で大会を開催することは原理上可能です。しかし後述するように、事前の綿密な計画と計画を遂行する力が無ければ巨額の赤字を生みかねません。期間が 2 倍に増えることで費用も単純に考えて 2 倍に増大するため、散漫な調査をしてしまうようでは会計を圧迫します。今大会も予算案を立てた段階で既に赤字がほぼ確実となっていました。調査期間を延ばす場合は緻密な計画と計画遂行力が必要であると思われます。

##### B) 大会当日設置

冬期に大会を開催する場合、屋外に設置されたコントロールユニットは厳しい環境に晒されます。場合によってはコントロールユニットが動作しなくなり、大会当日にユニットの差し替えが必要となります。朝のポスト確認及びユニット差し替えに掛かる人員及び計算センターに掛かる手間を省くため、ポストの設置位置、設置向き等を事前に決定し大会当日の朝コントロールユニットを設置いたしました。

競技責任者による文章にもあるように、設置は B4 版の全コントロール図で行われたため番号間違いはこの段階では発覚しませんでした。また朝設置する段階でユニットが 2 つ死んでしまい、ユニットの差し替えを行ったため計算センターに掛かる手間は省けたとはいえないと思われまます。

### C) ロング競技とミドル競技の併設

今大会は 2 月下旬の開催であったので、この時期の学生はインカレミドルに向けて、社会人は全日本ロングに向けて調整を行っていると思われます。そこでロング競技とミドル競技を併設することで全体の参加者が増えるのではないかと考えました。クラスが乱立し練習会のようになるのではないかと懸念もありましたが、要綱にこちらの意図を明記することでそのような懸念はなくなると考え、実行に移しました。

事前申し込みの段階で約 300 名のエントリーをいただきました。しかし 34 回大会の総参加者が約 300 名であったことを考えると、参加者を増やす効果があったとは一概に言えないと思われます。またロング競技とミドル競技を併設することでサイズの異なる地図を作成する必要があり、マップパーに負担をかける結果となりました。

## 3. ミスの誘発原因について

### A) 計画性の甘さ

大会企画が始動した段階から言えることですが、いつ頃までに何を終わらせるのか、という計画性が欠如していました。特に始動段階の計画性は皆無に等しく、「2014 年 4 月までに地図調査が半分終わればよい」という目安が唯一存在するのみでした。始動段階では役員が決定しておらず「詳しいことは後で決めればいい」と考え、議論を後伸ばしにしたことが原因と考えられます。

詳細を決めなかったため、2014 年 4 月の段階で調査に大幅な遅れが発生しました。2014 年 4 月に NishiPro の航空レーザ測量成果を導入してからは調査の進捗は飛躍的に向上しましたが、先ほどの遅れを回復するには至らず、2015 年 2 月まで調査を行わなくてはなりませんでした。

試走・調査のスケジュールの管理は 2014 年 2 月より運営責任者と競技責任者が合同で行っていました。大枠を運営責任者が作成し、詳細を競技責任者が決定する方式を取りました。このやり方を取ることで、競技責任者の負担を軽減しつつかつ臨機応変に対応できたと考えています。

### B) 各個人に掛かる負荷

大会を開催する上で役員を選出は重要な事案です。しかし今大会は十分な数の役員が集まらず、結果として「実行委員長兼運営責任者兼駐車場担当」、「競技責任者兼マップパー」、「大会会計兼エントリー担当」等 1 人あたりの負荷が極めて高くなりました。その結果役員が多くが自分の仕事で手一杯となってしまう、他の役員の仕事のチェックが十分にできませんでした。また自身も要綱・プログラムの作成や調査・試走のスケジュール作成に忙殺され、他の役員の仕事管理が十分

できませんでした。

以上のことから、一人当たりの役員の負荷を小さくするような努力が必須であると思われます。また人数の都合上どうしても役員の負荷が高くなることを見込まれる場合は、負荷が高くなる役員に対して十分な配慮を行う必要があると考えます。

#### C) マッパーと競技責任者の兼任

Bの項でも述べましたが、役員の人不足を補うためマッパーと競技責任者の兼任を行いました。そのため、調査の遅れから地図調査と試走を同時平行で行った2014年9月以降は、地図とコースの修正を同時にこなさなくてはならない事案が発生しました。他の人にマッパーの仕事又は競技責任者の仕事を依頼することも検討するべきでしたが、当時役員内では「自分の仕事は基本的に自分でこなす」という考えがあったため、他の人に依頼することはありませんでした。その結果、競技責任者の熊見に過大な負荷をかける結果となりました。多忙な状況の中でチェック漏れが発生し、今回のミスにつながったと思われます。

#### D) 地図印刷

地図調査が大会直前までずれ込んだため、地図印刷をOC所有のプリンターで行いました。しかし印刷中にプリンター本体の調子が悪くなり、印刷が不可能な状態となりました。YMOEの山川様に急遽依頼し、地図印刷を行いました。

プリンターの予備機を持たなかったこと、プリンターが壊れることを想定しなかったため、印刷が不可能な状態となって慌てることになりました。また地図の印刷に関しては競技責任者に一任していたことも慌てる原因となりました。トラブル対応はどこまで想定するかが難しいですが、プリンターが動作しなくなることをあらかじめ想定して、予備機の手配をすべきであったと思います。

#### E) 情報共有

今回一番できていなかったことであり、今後の課題と考えています。報告・連絡・相談が役員内でできていませんでした。役員会を週1回の頻度で開催していましたが、全員が集まることのできる日が少なく、参加した人とそうでない人で手にしている情報に差が出てしまいました。議事録を取って共有していましたが、議事録をきちんと読まない人も見受けられました。役員が全員出席できる日を役員会として設定することが望ましいですが、それができない場合は①1ヶ月前ほどから役員会の日程をあらかじめ決めてしまい、役員がなるべくその日程に個人の予定を合わせる②Skypeなどを活用する③議事録を読むよう頻繁に呼びかける等の工夫が必要と思われます。

またサークル全体には、6月と12月の定期総会で情報共有を行いました。直前期には全体のLINEグループを作り、必要な情報を共有しました。サークル員全体の士気を上げ、目標を認識させるため、全体のLINEグループを初期の段階から作り大会の方針や進捗状況などを共有する等の工夫をするべきであったと考えています。